

Local Area News

米国進出企業を視察

太田機械金属工業(協)

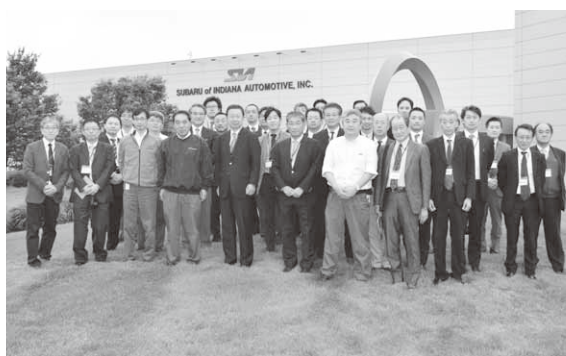
太田機械金属工業協同組合（坂本正堂理事長、組合員125人）では、5月10日、組合員23名がアメリカのインディアナ州に向けて発し、米国進出企業視察研修を開催した。なお、商工中金ニューヨーク支店、群馬銀行ニューヨーク支店の関係者らが加わり総勢27名の太田視察団となった。

視察団は2班に分かれ、富士重工業株式会社関連会社のSIA (Subaru of Indiana Automotive, Inc.) を始め、太田地域から進出した企業

の5工場を視察した。

今年立ち上がる新型インプレッサの生産に対応するための準備の様子や活気ある工場内、また、従業員教育や北米の自動車市場の状況等について見聞した。

なお、組合単独で実施する海外視察は初の試み。



SIAの工場前にて

BCP策定を目指す

赤城流通センター(協)

赤城流通センター協同組合（吉野勝博理事長、組合員16人）では、6月1日、事務局のBCP策定を

目指すべく診断を開始、策定では、東京海上日動がサポートを行う。組合は職員3名体制で、組合員に対する燃料給油のための施設を保有している。

相次ぐ災害発生に組合内で危機意識が高まり「災害に強い組合を目指す」ことを目標に掲げた。その具体的な対応策としてBCPを策定する。災害発生時、給油の安定供給を行うことで組合員に貢献できる組合体制づくりを目指すもの。

初回の診断では、BCPの基本方針策定のため、策定の目的や要点等を明確にした。また、運用体制において、事務局職員の役割の明確化や重要性が説明された。



アドバイスをを行う加藤氏(右)

アドバイザーの加藤隆主任推進役は「BCPは平常時に情報を集約しておくことが大きな目的のひとつである」と策定の意義を語る。今後、約半年を目途にBCPを策定する予定である。

「決算書の見方」を学ぶ

高崎水道工事業(協)

高崎水道工事業協同組合（湯浅均理事長、組合員144人）では、6月1日、組合事務所に「消費増税に備えるための決算書の見方」をテーマに講習会を実施した。講師はコンサルファーム群馬株式会社代表取締役／中小企業診断士の清水邦宏氏。



多くの人が集まった会場



講習会では、企業の経営実態を正しく把握するため、貸借対照表・損益計算書等の見方のポイントを学んだ。

また、企業を巡る経営環境についても触れ、世界経済、日本経済の現状についての理解を深めた。さらに、金融機関における融資の考え方や決算書の評価の仕方について学び、今後の企業経営に大いに役立つ研修となった。

椎茸菌床製造施設が完成

群馬きのこ生産(協)

群馬きのこ生産協同組合(薫勝江理事長、組合員5人)では、

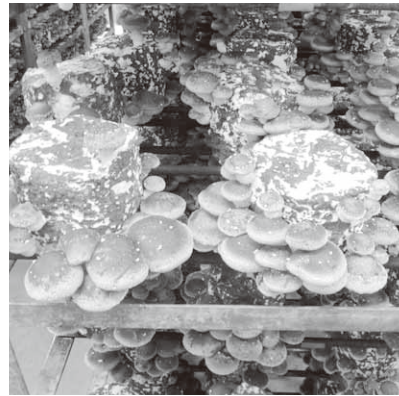
6月14日に椎茸菌床製造施設の内覧会及び竣工式を開催した。

内覧会では、テープカットのセレモニーの後、「攪拌・充填・植菌・培養」の作業工程の順に、最新設備が導入されている作業現場を関係者に披露。竣工式では、中曽根弘文参議院議員(しいたけ等特用林産振興議員連盟会長)、茂木英子安中市長も出席し、総勢約80人で盛大に開催された。薫理事長は挨拶で、「椎茸生産事業者は、安価な輸入椎茸の増加に加え、福島第一原発事故に伴う風評被害で大打撃を受け、大変厳しい経営が続いている。同施設の建設に伴い、高品質で安全・安心な椎茸を供給し、群馬県ブランド椎茸の一翼を担うとともに、雇用の場の確保等



テープカットセレモニー

を通じて松井田町の活性化にも貢献していきたい」と語った。



出荷前の菌床椎茸

同組合は、安中市松井田町で菌床生椎茸を生産する事業者により、椎茸菌床ブロックの共同生産を主目的として平成27年3月3日に設立。昨年度、林野庁の「森林・林業再生基盤づくり交付金事業」を活用し、椎茸菌床製造施設の建設に着手して今年3月に完成した。今年度は、210万本の椎茸菌床ブロックを生産し、組合員を通じて620トンの生椎茸の生産・販売を見込んでいる。

女将の「お茶入れサービス」スタート

伊香保温泉旅館(協)

伊香保温泉旅館協同組合(福田



麦茶でもてなす女将

朋英理事長、組合員50人) 婦人部お香女(おかめ)会では、お客様から大変好評な「お茶入れサービス」を今年も開始した。

石段街の中ほどにある「ポケットパーク」で毎週日曜日の10時45分から12時15分までの時間帯に行うもので、散策中のお客様に伊香保の湧水で作った麦茶を振る舞う。肌寒い日には「温かい麦茶」を、暑い日には「冷たい麦茶」を提供するとともに、旅館女将との会話を楽しんで頂いている。

なお、お茶入れサービスは11月上旬まで行う予定。